WEEKLY REPORT

関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第２６３０地区 東海北陸道グループ

2024～2025 年度　関中央ロータリークラブ　会長テーマ

「奉仕の実践を通じ、求められ、

必要とされるロータリアンに」

例会日 ： 毎週木曜日 18 時 30 分
例 会 場 ： 関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2
会　長 ： 大藪　太
副会長 ： 土屋　敏幸
幹　事 ： 後藤　政之
会　報 ： 北原　慎
事務局 ： 岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D
TEL 〈0575〉24-7332　FAX〈0575〉23-5278

前例会の記録　第 ２１７２ 回
2025 年 ４月 １０日（木）
C.A 会長エレクト研修セミナー報告
場　所　関観光ホテル（例会場）
担　当　次期会長・幹事

本日のプログラム　第 ２１７３ 回例会　２０２５年 ４月 １７日（木）

C.A 地区研修・協議会報告

担 当 ： 次期会長・幹事

＊国歌「君が代」斉唱
＊ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
＊4つのテスト唱和

＊会長あいさつ　大藪　太 会長
皆さんこんばんは。本日のプログラムはクラブアッセンブリー会長エレクト研修セミナー報告です。吉田会長エレクト、よろしくお願いします。さて、4月2日(水)美濃市の緑風荘において、3クラブ合同花見例会が開催されました。当日は2630地区ガバナーエレクト玉野英美様、次期地区代表幹事安田健三様もビジターとして出席されました。会場の緑風荘の廻りは桜がほぼ満開で、来賓として挨拶をされた美濃市の武藤市長も言っておられましたが、花見例会と桜の満開が一緒になるのは大変珍しいことだそうです。短い時間でしたが、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。また4月4日(金)アテナ工業アリーナに於いて、大相撲春巡業関場所が開催されました。関市での巡業は2000年以来25年ぶりだそうです。会場は約3000人のファンが集まり、満員御礼の盛況ぶりでした。横綱豊昇竜関をはじめ120人の力士が参加、激しいぶつかり稽古や相撲甚句、しょっ切りなどで盛り上がりました。特に関市出身、出羽海部屋の序二段翠桜(すいおう)さんと、幕下山藤(やまとう)さんの兄弟力士が土俵に上がると大きな歓声が起きました。2 人は共に幼少期

かレら岐阜市のクラブで相撲に打ち込み、翠桜さんは桜ヶ丘中学卒業後、山藤さんは岐阜農林高校卒業後、同じ出羽海部屋に入門しました。兄の翠桜さんが当初名乗っていた本名の山藤は弟に譲り、関市の鳥カワセミを意味する「翠」と母校の桜を取って「翠桜」というしこ名を付けたそうです。2 人そろって十両、幕内へ昇進することを期待したいものです。実は私の祖父も大変相撲好きの人でありまして、若い頃相撲好きが高じてはるばる上京し、一時相撲協会に所属して相撲を取っていたそうであります。祖父の実家に保存してあった化粧まわしを見せてもらったことがありますが、何十年も経っているのにもかかわらず、綺麗に保存されていたのを思い出します。さて相撲と言えばまわし一本、裸に近い状態で取り組む競技ですが、それを裁く行事だけは大変華やかな衣装を着ています。「直垂（ひたたれ）」と呼ばれる装束を身につけ、烏帽子（えぼし）をかぶるこの衣装は、古く平安時代に起源があるようです。今のように娯楽が少なかった平安時代、相撲は朝廷が鑑賞される貴重な娯楽でした。そしてその勝負を裁いていたのが同じく宮中に於いて音楽を演奏する雅楽師でした。あのきらびやかな衣装は雅楽師の衣装です。雅楽師として衣装をまとう時と違うのは、腰に刀を差しているところです。万一行司差し違えがあったら、切腹をして責任を取るくらいの重い責任があったようです。そしてあるときの相撲で、実際に行司差し違えがありました。行事はさすがに切腹はさせられませんでしたが、責任を取り遠方への流刑、今で言う島流しのような刑を受け、遠く九州は福岡へ追放になったそうです。もちろんすべてのものは取り上げられ、雅楽師としての衣装、道具も持って行けませんでした。その追放された雅楽師は横笛の一種である龍笛の名手であったそうで、追放されるとき、龍笛だけは隠して持って行ったそうです。そして遠く福岡の地で暮らしていても雅楽が忘れられず、夜な夜な隠れて吹いていたそうです。そして、雅楽の代表的な楽曲のひとつである「越天楽」という曲を吹いているうち、地元にそのメロディーが広がりました。そして昭和初期、それが民謡として扱われ、戦国時代、黒田藩の母里（もり）太兵衛が福島正則の名刀日本号を賭けて、大杯を飲み干したという伝説と、武士の心情の歌詞を付けて誕生したのが「黒田節」です。実際聞き比べてみますと「越天楽」と「黒田節」はほぼ同じ曲調です。

＊2025年会長エレクト研修セミナー（PETS）報告

吉田　和也　会長エレクト

3 月 30 日に名鉄グランドホテルで行われました会長エレクト研修セミナーの報告をさせて頂きます。10 時 30 分点鐘、17 時 30 分セミナー終了、その後懇親会が開催され 19 時までのスケジュールでした。長い時間しっかりと勉強をさせて頂き、頭のキャパがオーバーするのでは・・・と思うほど、発表が多々あり内容の濃い講習でした。懇親会でしっかり飲むつもりでいましたので、鵜沼まで車で行き帰りは代行を頼んで鵜沼の駅まで迎えにきてもらい帰宅しました。さて、本題のセミナーですが、開会セッションでは、特別出席者・次期ガバナー補佐・次期地区委員会委員長の紹介があり、亀井ガバナー、河合ガバナーノミニーが挨拶されました。第一セッションでは RI メッセージ・地区活動を玉野ガバナーエレクトが発表されました。今までは、RI 会長やガバナーの年度の指針を「テーマ」として発表されておりましたが、次年度からは、「メッセージ」として発表されるように変更となりました。次年度から会長エレクト研修セミナーは会長エレクトラーニングセミナー（PELS）の名称となります 2025 年 RI 会長はマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ、ブラジルサンパウロの方で、職業分類は、本人は弁護士とおっしゃっているようですが、父親が設立した印刷会社の元取締役、彼のリーダーシップのもとブラジルや南米のクライアントに印刷物を提供するサプライヤーに成長され、現在は、印刷界のビジネス・コンサルタントとして活躍されてみえます。ロータリーに 1980 年 23 歳で入会さ、理事、管理委員を歴任され、ブラジルで 4 番目の RI 会長として就任されました。今までは RI 会長エレクトが次年度のテーマとして目標方針を発表されておりましたが、次年度からは、RI コミュニケーション委員会と行動委員会、そして会長エレクトの 3 者「3yearRollingGoals 3 年間の目標と計画」という事で、継続性を持ったメッセージという形で発表されました。マリオ RI 会長エレクトのメッセージは「UNIT FOR GOOD よいことのために手を取りあおう」です。

分断されがちな世界において、ロータリーは団結と希望の光となります。私たちのプロジェクトは、人種、ジェンダー、性別、思想、経済的背景の異なる人々を結び付け、世界で良いことをするという共通の目的で、私たちを一つにします。ロータリーの活動は、よりよい人間となり、人々に奉仕し、末永いインパクトをもたらすよう、私たちを鼓舞します。マリオ氏は昨年会長ノミニーの時に、会員増強を私たちの組織の最優先事項であり、最も価値のある資産であり、最大の課題と強調されました。そして、RI 会長エレクトとして現在、ロータリーの未来を確かな物にするには、組織全体で会員増強に力を注ぐことが不可欠であるとこれまで以上に確信を持たれました。彼は、ロータリーの最大の財産は、その歴史でも、プロジェクトでも、比類ない世界的な広がりでもありません。それは会員です。会員は、地球上でもっとも有能なボランティアのチームです。個々の会員が協力することで世界を変える力があると述べられています。彼は、アトランタ国際大会で、ポリオ根絶のパートナー団体を代表する人物が(ビルゲーツ財団の事だと思われますが)ロータリー会員の並外れた献身を称賛したのを聞かれて、そのことを学んだと話されています。外部団体からそう認められたことで、ロータリーが世界に与えることのできる最大の贈り物は、その会員であると確信されたようです。成長のために必要な 3 つの柱として、革新、継続性、パートナーシップをあげられ、変化する世界に適応しつづけることの重要性を強調させています。継続性の重要性として、会員増強とロータリーの成長を支えるためには、単年度ごとのリーダーシップではなく、継続的なビジョンが不可欠であると指摘されました。ロータリーが提唱する 3 年間の目標と計画の通り、今各ガバナーが一貫した方向性を持ち、提唱された課題を尊重し、次年度も引き続き協議して実践していくことで、持続的な発展が可能になります。パートナーシップとして、ロータリーが単独で成し遂げられることは限界があるため、外部の組織と連携することで、より大きな影響を与えるとマリオ RI 会長エレクトはのべられました。マリオ RI 会長エレクトのスピーチは、会員増強、持続性、パートナーシップという 3 つの柱を中心に、ロータリーの未来に向けた行動指針を示すものでした。最後に彼はロータリーの活動は、世界中に友人をつくり、楽しむことも大切であると述べられました。そしてロータリーはよいことのために団結する組織であり、この精神に誇りをもって受け継いでほしいと呼びかけられ、成長、奉仕、つながりの旅路を共に歩み、よいことのために手を取り合えるロータリーを築き、すべての人にとってより明るい未来を実現させましょう、と締めくくられました。続きまして、第 2630 地区 2025 年～2026 年度玉野英美ガバナーの地区方針です。まだ 50 代で、日本のガバナーの中で 50 代のガバナーはお2人で、お若いのにと感服致します。所属は桑名北ロータリークラブ、旅行業を営んでみえます。先日行われた3クラブ合同花見例会にビジターとしておみえになられ、美濃市の緑風荘に添乗員として 2、3 回訪れたことがあると言われておりました。その玉野ガバナーのメッセージは「RISE with ROTARY 地区と地域の未来を考えて」です。地区の皆様が、ロータリーをさらに楽しみながら盛り上げて、もっと自地区を上昇させ、地元地域を活性化して頂きたいという意味が込められています。 そのために玉野ガバナーは次のようにお話されました。奉仕活動により、世界をより住みやすい場所にする為、ロータリークラブに与えられた課題はそれぞれのクラブが 10 年後、20 年後も生き生きと元気であるために、今からクラブが何をしていく必要があるかを考え、それを実践していくことです。同時に世界をよりよい場所にしていくための行動力が必要です。そのためには、地域と会員が、会員とクラブが、クラブと地区が、地区と RI がいつも繋がっていなければなりません。2025－2026 年度の地区運営は、地区内の「つながり」を大切にしていきます。その環境作りとして、ホームページの改善や「ガバナー月信」の発行、そして会員の皆様がより交流できる機会を増やすことに注力していきます。私は、ロータリー会員の皆様一人一人がロータリーを楽しみ、ロータリーを知ることが、会員である誇りと帰属意識を生み、それにより各クラブが活性化され、魅力のあるクラブに発展し、地域によりインパクトを与え、さらに地域に存在意識を与えることに繋がると考えます。私たちが理念を共有し、強い絆を築くことで、より多くの人々に貢献できるロータリークラブを目指しましょう。そしてもっと第 2630 地区の地域の皆様にロータリーの良さと取り組んでいる奉仕事業をアピール

し、職業倫理としての「4 つのテスト」とロータリーの楽しさを伝えることで公共イメージ向上につなげ、そして1人でもより多くの会員増強に努めましょう。日本では1998 年、ロータリーの会員数が最大となり、社会貢献においても大きな成果を上げてきました。近年は、社会奉仕活動に重きを置くあまり、本来のロータリー活動の理念が薄れつつあると感じます。ロータリーは地域社会への奉仕だけではなく、職業倫理の向上や親睦を通じた平和の促進といった包括的な理念の元に生まれた運動です。この理念を再び共有し、未来への新たな変化を迎え入れることが、今の私たちに求められています。と締めくくられました。私もクラブの方針のメッセージを、マリオRI会長、玉野ガバナーのメッセージから勉強し、当クラブ会員の皆様が次年度、社会貢献や自己研鑽をしていただき、益々のご活躍ができるように、三役、理事、役員と協力してクラブ運営をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。また、マイロータリーに登録をと勧められました。前回の会長の時、後回しにしていて、登録しないまま過ぎてしまいましたので、今回は登録していろいろな情報を引き出せたらと考えています。皆様も登録をして頂きロータリー活動の情報収集にお役立ていただけたらと思います。また、ジャパンポータルサイトという日本ロータリーが立ち上げたサイトがあり、そこにも様々な情報がありますので併せてご活用下さい。ロータリーカード（クレジットカード）は利用額の 0.3％がポリオ募金に寄付されます。ロータリアンという事で色々な特権もあるようですので、よろしければ 1 枚おつくり頂けたらと思います。直前ガバナー、バストガバナー、各委員会の方の印象に残ったお話をご紹介いたします。まず公共イメージ委員会ですが、土屋副会長が委員として参加されてみえます。ロータリークラブの認知度として、「あなたはロータリークラブの事をどこで知りましたか」という質問に対し一番多かったのが口コミです。仕事をする時、ゴルフに行く時、友人や家族と食事に出かける時に、ロータリーバッチをつけて外出し、たくさんの人と楽しい時間を過ごすことがロータリーの公共イメージ向上の第一歩になるとお話されました。次年度から、バッチが歯車だけではなくロータリーという文字のロゴが入ったものになります。時と場所によりますが、できるだけ協力できたらと思います。次に高橋直前ガバナーの「3year rolling goals」クラブの活性化と会員基盤強化・増強についての講習です。「3year rolling goals」は昨年位から言われていることだと思いますが、これはロータリーの行動計画は、新たなリーダーが就任するごとに方向性が変わることを防ぎ、重要目標の達成に向け、確固たる方向性をもって進むために必要である。という事ですが、我がクラブにおきましては、いろいろな事業がありますが、すべて継続事業で特別に方向性が極端に変わることもございませんので、その時々に順応した事業計画を相談しあい行っていけばよいと思います。クラブの活性化について、クラブと会員の質と量の向上を唱えられました。質の低下につながらない、健全な会員増の達成を目指すには、魅力的で持続的成長が可能な強い組織力のあるクラブ成長することが必要と言われました。会員の皆様が何よりロータリーを楽しいと思え、自己研鑽の場所となるような、例会、クラブ運営に努めたいと考えました。そのようなクラブ活動をすることが、会員増強につながるのではと思います。次に、ロータリー財団ですが、世界でよいことをしよう。という標語のもと活動を行っておりますが、次年度は、喜久生先生にガバナー補佐として出て頂いておりますので、行事がたくさんありとても忙しい年となりそうですので、補助金を申請しての事業は計画しておりません。皆様が寄付したお金ですので、補助金を申請しての事業を計画して頂けたらと思います。最近よく言われているDEI についてですが、「多様で D、公平で E、誰をも排除しないすべてを含んだ I」、という意味ですが、DIVERSITY（ダイバーシティー）、多様性は、多様なバックグランドの会員構成という事で、会員それぞれの、職業、年齢、性別、ロータリー歴、どれだけの時間をロータリーに使えるか、どんなテーマの奉仕活動に興味があるか、どのような学習タイプかという、個性を大切にし、EQITY（イクイティー）、公平さ、誰もが同じ重みで大切にされている、会員誰もが、意見を言える、役割がある、必要な情報を得られる、クラブを楽しめる、という皆に対する公平さ、INCLUSION（インクルージョン）抱合、包括性、それぞれの多様な会員誰もが、受け入れられていると感じるクラブ、満足できる、居心地の良いクラブ、自分らしく参加できるクラブつくりが、イン

クルーシブなDEIの実現したクラブという事です。その中で、若年層の方、外国籍の方、女性の方、ジェンダーの方などをインクルーシブに受け入れるということは理解できるのですが、最近職業分類で職業をもっていない方の入会を認めるとありますが、それは職業奉仕の考え方からすると私は少しちがうと思い、何でもかんでもというのは良くないのではと、私なりに思っております。その他、まだまだ各委員会の発表が続きましたが、先程もお話させていただいた通り、短時間で凝縮された内容でしたので、クラブ活動に対しての私の発表はこのくらいにさせて頂きまして、閉会セッションとなりました。閉会セッションでは11月8、9日に桑名北ロータリークラブがホストで、桑名市の柿安シティーホールにて開催される、地区大会についての発表があり、クラブで50%の登録をお願いしますと言われました。是非皆様、講演やロータリーのことを聞いて自己研鑽して頂くのと、その後の懇親会で大いに盛り上がって頂き親睦を深めて、ロータリー活動を楽しいものにしていただくために多数の参加をお願いいたします。懇親会では、喜久生次期ガバナー補佐を東海北陸道グループと岐阜サンリバーロータリークラブと岐阜淡墨ロータリークラブの会長が囲んでの会食となりました。次年度、関クラブ、郡上長良川クラブ、岐阜淡墨クラブの会長は女性で、ガバナーも女性です。女性が活躍されてみえ感心しました。当クラブも女性会員に入会していただけたら良いと思いました。玉野ガバナーにIMの事などをお願いしにお酌に行ったところ、「記事を書いてもらえて」と御礼を言われましたが、そのような記事を書いた覚えがなく、なんのことかと思っていましたら、先日の花見例会で、当クラブの会報でのIMの発表の記事を、スマホで見せられて、なるほど私が発表した内容がかかれておりました。何を発表したか覚えておりませんが、玉野ガバナーはすべてのクラブの会報をご覧になってみえると感心しました。次年度、至らぬ会長ではございますが、研修セミナーで勉強したことを活かし、3 役をはじめ、理事・役員、会員の皆様のご協力をいただきながら、楽しく親睦を深めていくクラブ活動を目指していきたいと思います。どうか皆様宜しくお願い申し上げます。

＊出席委員会
会員数30名、本日の出席17名です。

＊ニコボックス委員会
・会長 副会長 幹事
吉田会長エレクト、研修お疲れ様でした。本日は宜しくお願いします。
・石原 妙生 会員
先日、妻の誕生日に優しい味の円空さんを頂き、妻も優しくなると思います。

17名のご投函ありがとうございました。

＊幹事報告
・今月のロータリーレート 1ドル150円です。

＊次期幹事報告
（次年度）委員会活動計画書を未提出の方は提出をお願いします。

＜次例会の案内＞
第 2174 回
2025年 4月24日（木）
担 当 ： 国際青少年交換委員会
卓 話 ： 岐阜新聞社 中濃総局長 野中 準二 様
テーマ ： 新聞記事に学ぶ文章の書き方